

『岸上大作と僕』

【登場人物】

語り手

大輔

岸上大作

●プロローグ

語り手..

人は言葉を持った瞬間から、孤独を手に入れた。
誰にも届かぬ本音を、胸の奥にしまい込む日々。

静かに手を広げ、観客へ語りかける

語り手..

でもある日、世界にひとつの“広場”が現れた。
名前は『X』。

それは叫ぶためでも、飾るためでもない。
ただ、自分の言葉を置いていく場所。

スマホを見つめる仕草をしながら

語り手..

タイムラインという名の川に、詩が流れる。
誰かのためでもない。
でも、誰かが泣いてくれる。

間をあけて、声を低く、鋭く

この世界には、
“わかる”の一言が、
“生きてていい”に変わる夜がある。

観客を見据えて

アプリ『X』――

それは現代の詩人たちが集う、静かな戦場。

語り手、胸に手を当てて

語り手..

詩とは、見せるためのものやない。
伝えるために、ただ存在する。
そしてXは、それを叶える、
最後の言葉の楽園。

語り手が後ろを向き、去ろうとする

語り手..

――今夜もまた、誰かの心が文字になる。スクリーンの向こうで、
誰かが泣いて、誰かが救われる。

振り返り、ラスト一言

語り手..

ここは、“詩”の居場所。
ここは、X。

語り手去る

● 1 現代の大輔